



真実を探して、幻滅を払いかけで
哲学書を読みあさり
光に手をかざし
虹の橋を渡って
健康に気を配りながら
空を飛び回り
月に恋して

星になる夢を見て

宇宙さえ手に入れようとしている

この手では抱えきれないはずなのに

この胸は満たされないはずなのに

さあ 次は何処に進化もうか

8月盛夏号 vol. 6

DOKU—GAKU

—読書を楽しむ会—

目次

メンバー紹介・新会員紹介	2
特別企画 — 「私の大好きな歌詞」	3
ちかちゃんの浜田省吾ライブレポート	12
がみちゃんの映画道 その3	13
読書リスト (2000年6月・7月)	14
挿し絵 うさお	
うさおのショートストーリー	24
健ちゃんのテレカ	28
コレクション — 第4回	
表紙は語る	30
DOKU—GAKU掲示板	31
次号予告	34

読書を楽しむ会メンバー紹介

〔NAME CODE〕

001	会長	健ちゃん	fwvx7968@mb.infoweb.ne.jp
002	副会長	がみちゃん	FAX 045-573-5440
003	書記・総務	あみちゃん	ami77@infoweb.ne.jp
004	企画・会計	ちかちゃん	chicako@shogo.com
005	編集・総務	かよこちゃん	kayokoma@infoweb.ne.jp
006	相談役	うさお	ismasuda@infoweb.ne.jp
007	会員	yukoさん	shiro@hi-ho.ne.jp
008	会員	由佳ちゃん	wsyk@qc4.so-net.ne.jp

祝・新会員 由佳ちゃん

またまた浜田省吾さんが連れてきてくれた、ちかちゃんのメール友達です。

ー由佳ちゃんの挨拶ー

結婚 5年目、もうすぐ27才。福岡生まれの福岡育ちで、愛知に住んでいます。

本はけっこう乱読派、つまり身になってないってこと！？音楽を聴くことも映画を見ることも大好き！ですが最近劇場は御無沙汰。レンタルビデオばかりです。一人で映画館に行くのも全然平気なので、もっと劇場でたくさん見たい！！

ー新会員由佳ちゃんを迎え、新たな気持ちで自己紹介をしたいと思いますー

あみちゃん スガマニアそしてハルキストのDOKU-GAKU最年少会員。

(えーと、ちなみにスガマニアというのはスガシカオを愛する人々の総称、ハルキストは村上春樹ワールドにどっぷり浸ってる人々のことです。)

がみちゃん がみちゃんは、いくつになっても荒野をめざす。

こだわりの強さ、偏りの度合いは誰にも、ひけをとることもなく今日もがみちゃんはわが道を行く。 ←ちかちゃんの紹介文。

ちかちゃん PCを買って、5ヶ月。たくさんの師匠の教えの元、何とかやっています。

でもたまには、PCを捨て、書を捨て町に出なければと身体を見てあせる今日この頃。

かよこちゃん ミスチルッ子でモトさまフリーク。

新たにあみちゃんのあとを追って、ハルキストをめざしています。

yukoさん 省吾命・・・気は若い広島っ子。何よりも読む事が大好き！

多趣味(どれも広く浅くですが・・・)なわりに、本と省吾の歌が あれば生きて行けると本気で考えている、射手座、AB型の 典型的人間です。

8月号特別企画

〈私の大好きな歌詞〉

002 がみちゃん

私は 私よ もともとこんなよ
笑いたかったら きゃっきゃ 笑うわ
愛して くれれば 私も好きだわ
相手が変わって それがなんなの
私は 私よ もともとこんなよ
しかたがないわね
しかたがないでしょ

これはフランスの詩人の詩だそうです。私が初めて知ったのは、高田渡氏の唄です。

「天井桟敷の人々」のなかではギャランスが鏡の前で口ずさむんです。

どうして好きかといわれると説明が大変だけど、私こういう女に憧れていたため、その最たるものがギャランスなんだ。

ギャランスが口ずさむ雰囲気も良かったけれど、高田渡氏の唄も良かった。

あと、唄といえるかどうかわからないけれど、高校の教科書に載っていた斎藤茂吉の俳句。

せきをしても ひとり

ひろびろとした空間を感じさせ、さっぱりした孤独感があり、潔さに驚いた。

国語なんて大嫌いだったけれど、このときばかりは目がさえた。



ゲスト 綾美ちゃん

私、好きな歌詞は「青葉の笛」とか「椰子の実」
歌う前に詩だけで泣いちゃうようなのが好き。
美しい日本語の詩が好き。昔の言葉が好きです。

「青葉の笛」なんて、朗読しただけで声が詰まるよ。

1、一の谷の いくさ 破れ

討たれし 平家の 公達 あわれ
あかつき 寒き 須磨の 嵐に
聞こえしは これか 青葉の笛

2、更くる 夜半に 門を 敲き（たたき）

わが師に 託せし 言の葉 哀れ
今わの 際まで 持ちし 簞（えびら）に
残れるは 「花や今宵」 の歌

ええ歌やおまへんか。

この他七里ヶ浜の哀歌 「真白き富士の嶺～緑の江ノ島～」好きです。

私の年代でもこの歌知ってる人ほとんど無いかも知れないけれど
大昔、母がよく歌っていたのです。



005 かよちゃん ーMr. Childrenを聴くー

わたくし、実はDG表紙を担当させてもらっております。皆さま、お気づきかどうか分かりませんが、2号からの表紙には、ベースにMr. Childrenというバンドがいます。そのイメージを私なりに一枚の表紙という形に仕上げ、ぽつぽつとミスチルについて語ってきたつもりです。ミスチルの歌がふと流れてきたときに、少しでも耳を傾ける気持ちになって頂ければ、とってもうれしいです。

「名もなき詩」

愛はきっと奪うでも与えるでもなくて 気が付けばそこにあるもの
街の風に吹かれて唄いながら 妙なプライドは捨ててしまえばいい
そこから始まるさ



「es〜theme of es〜」

何が起きても変じゃない
そんな時代さ 覚悟はできてる



ミスチルの楽曲を聴き続けるということは、長い私小説を読む感動に似て、ボーカリスト桜井君の心の軌跡、ひとりの人間としての進化をリアルタイムで見守っていく、そんな感覚があります。ついね、考えてるんですよ、時にはちょっと思い悩んじゃったりするのね。ミスチル＝桜井和寿のことだね。だってしかたないよね、彼の歌を聴くことは、彼の自意識を共有することだから。彼の思いの奔流に身を投げ出すことだから。（困ったもんだね、全く。）



「虜」

最低の君を把握したい



「終わりなき旅」

誰の真似もすんな 君は君でいい

自分の心の中には常にあったけれど、今まで誰も語ってくれなかった言葉。言っではいけないのだと思い込んでいたような言葉。ミスチルの歌は心の奥深くしまっていたものを掘り起こしていく。言葉という明確なものに変えて———といいつつ、何かなあ～ミスチルともこれだけ長い付き合いになると、もう言葉なんかなくてもいいような妙な感覚を抱いてしまう。言葉っていうのは手段ではあっても目的ではないのかも。言葉をとっばらってしまったって、きっとミスチルの歌は心の中に入ってくる。感じるボーカリスト？ きっとそうなんだね。

「花—Memento—Mori」

等身大の自分だって きっと愛せるから
最大限の夢描くよ たとえ無謀だと他人が笑ってもいいや





「Everything It's you」

世間知らずだった少年時代から 自分だけを信じてきたけど
心ある人の支えの中で なんとか生きてる今の僕で

「旅人」

安直だけど純粋さが胸を打つのです

桜井君には孤独の匂いがする。それはだだっぴろい野球場の真ん中に取り残された人のような。彼は辺りを見回すが観客もチームメイトも姿はない。そこに試合開始を告げるサイレンが。彼はたったひとりで投球を開始する——そんなイメージは職業ミュージシャンとしてはマイナス要因かもしれない。でもね、その「ひとりで在る事」の気配は、美しくもあり、痛ましくもあり、ミスチルの「自分らしさ」であるような気がするんですよね。

「幸せのカテゴリー」

本当の自分なんて 何処にもいないような気がしてる
だからこそ僕らは その身代わりを探すんだね



「image」

楽しく生きていくimageを
膨らませて暮らそうよ
この目に写る 全てのことを 抱きしめながら

桜井君の求めているものはなんなのだろう？

わかるはずもないけれど、心の奥深く、ずっとずっと奥深くを辿っていけば、全ての人間が本能的に希求するもの、そんなものを彼は探しているんじゃないかと思う。

「イノセントワールド」

いつの日もこの胸に流れてるメロディー
切なくて 優しくて 心が痛いよ
陽のあたる坂道を昇るその前に
また何処かで会えたらいいな
その時は笑って 虹の彼方へ放つのさ
イノセント ワールド



94年、街にはこの歌が溢れていた。

その歌は私のところにも訪れ、それ以来ミスチルの歌は私にとって「いつの日もこの胸に流れてるメロディー」になった。

8月にひさびさの新曲が発売になる。「Not Found」探しものはどうやらまだみつからないらしい。ミスチルが答えを探し続けるのなら、もう少し、その旅の同伴者でありたいのです。

007 yukoさん

若かった頃…

“澄んだ空のように僕が、五月の風のように君が
生きて行ければ素敵だ、迷いながら歩く明日を…”

と言うフレーズが大好きで、私の作詞ノートは、最初のページに必ずこの部分が
書いてあった。

「僕らの歴史」

作詞・曲…細坪基佳（ふきのとう）

君は干し草でベッドを作り月の光をランプ代わりに
旅の途中の幾つめかの夜少し疲れて眠っている
標のない長い道ならいさかいの種おちているだろう
破れた夢に継ぎを当ててふさいだ心に風をあてて
澄んだ空のように僕が
五月の風のように君が
生きて行ければ素敵だ、迷いながら歩く明日を
僕らの前には白い道だけ嵐も行けばいつか青空
多くの夢と物語を刻んで、君との出逢いから始まり
そして作り上げて行く僕らの歴史、分かれ道など通らぬ旅だ
雨は土を優しく潤し風は雲を静かに運ぶ
生きて行ければ素敵だ迷いながら歩く明日を
曲がって流れるふたすじの水なら
僕らの小川よいつか川となれ



人を好きになり、やがて二人で歴史を作って行く…当たり前の事がこんなに
難しいなんて…そんな事を考えていた頃出会った歌

澄んだ空のように…五月の風のように…

本当にそんな風に生きていけたら、自然な心のまま、誰にでも優しい気持ちで
接する事が出来るのに…だんだん嫌な汚れた人間になっていく自分を何とかしたくて、
書くということに専念し始めた時、ノートの最初のページにこの好きなフレーズを書いたのだと
思う。

メロディも耳障り良く、爽やかで、今でも時々聞くのだけれど、いつでも優しい気持ちになれる
…良い歌です。

ごあいさつ

このたびの企画「私の大好きな歌詞」にあたり、浜省ファンがDーGに集まっているということで、大げさなタイトルの特集を組ませていただいた次第です。これを機会に、皆さんが浜田省吾というロックンローラーに少しでも興味を持ってくれたなら、とても嬉しく思います。

007 yukoさん

好きな曲、歌詞、たくさんあって、選びきれないのですが、今の私の気持ちで選ぶとしたら、この歌になりました。

人を愛する事の喜びと、それと同じ重みの切なさ…

年を重ねるにつれてわかってくる永久の別れ…

こんなに切ない歌詞なのに、省吾の魔力にかかって、そうなのよね…と納得する。

いつかは必ずどんなに愛する人とも別れの時がやってくる。だけど、その時この歌のように愛する人と語り合える、そんな人生でありたい…

「初秋」

戦火に倒れた恋人を抱きしめて
泣き崩れる男を映す TVニュース

誰かを愛したら
その喜びと同じ重さの哀しみも 手にするのか

永遠の別れが いつか来ることに
人は皆 気づいているから

君と出逢って こんなに切ない
胸の奥が苦しいほど

ふれあい いたわり
陽ざしの中で 短い時を共に過ごしたい

いつか君を見送る時が来たなら 笑顔で別れを
告げよう

君が僕を見送る時は この歌を思い出して

どんなに 二人で過ごした人生が
幸せに満ちてたか

愛してる いつまでも
傍にいても 離れていても いつでも

僕の名を呼ぶ声も
僕の手にふれる ぬくもりも はかなくて 愛しい

約束も 誓いの言葉も 何もいらない
君がそこに いるだけで…



我が心のマリア

マリア、まばたきする度 君の名を 呼ぶ
 どれほど 僕が 焦がれているか
 君は 知らない
 どれほど 触れてほしかったかを

マリア、君は何故?と訊く
 だけど 理由なんてない
 どうして 君を 愛しているのかなんて
 わからない
 ただ 君の 心の中にある 何かが
 僕の 孤独を 呼んだ

君がいなければ いきていけない
 でも 君は行く 行ってしまう
 マリア、君の名を呼ぶ
 マリア

わかっている 何をしたって
 もう二度と会えないことを
 マリア、まばたきする度 君の名を 呼ぶ
 どれほど 僕が 焦がれているか
 君は知らない
 どれほど触れてほしかったかを

マリア

M a r i a

Maria I call your name
 into the air every moment
 You'll never know how much
 I wanted just one tender touch

M aria You asked me why
 But I don't know why
 I'm in love with you
 something inside your heart
 called out to my loneliness
 I can't go on without you.

But I know you have to go
 M aria I call your name
 Into the air. M aria
 I know I can't see you again
 No matter what I do

M aria I call your name
 Into the air every moment
 You'll never know how much
 I wanted just one tender touch

M a r i a



初めてこの歌を聞いた時、切ない歌詞なのに優しさに包まれたような気持ちだった。
 どんなに強く人を愛しても決して満たされない。
 個としての人生を歩む以上、寄り添いひとつになりたいと願っても
 最終的には死によって決別されてしまう。すべては移ろい消えてゆく。
 諸行無常だからこそ、そのはかなさの中の美しさと強さを感じながら生きていきたい。
 そんなことを感じた。
 愛する人が去ってゆく歌はたくさんあるけれど、未練ではないこの歌詞が、とても好きです。
 余談ですが、息子と二人車の中で渋滞にあい、進まない車と、後からピッタリつけてくる車高低い
 セルシオにイライラモード上昇中の私。
 その時流れてきた曲はまさに省吾「M a r i a」のイントロ。歌詞の始まりより一足早く歌いだし
 た息子「マリア～♪ 歩こうよね～♪」(本当は I'll call your name)
 大爆笑しちゃいました。 車で行って混んでいたら歩いていけばいいんだよ
 う～ん 3歳にして人生の悟りを開いている我が息子。将来有望です。
 ビギナーズラックじゃないことを祈る・・・。

004 ちかちゃん

浜田省吾は四半世紀、歌い続けている。

もう長い間、TVに出ることもCMやドラマとタイアップすることもなく、

浜田省吾は歌い続けている――。

私が省吾さんを聞き始めたのはここ数年のことだけど、それでも言えるのは、浜田省吾はやっぱりライブの人。ステージで歌い、踊り、話し、オーディエンスとともに最高点へ向かっていく。そんな省吾さんの歌を歌詞だけで選ぶ作業は私には難しいことなので、よく知らない人に向けてこの詩にしました。浜田省吾は「片思い」や「もうひとつの土曜日」だけじゃなく、評論家が言うようなメッセージシンガーだけでもないんだ、とー。省吾さんとの出逢いは遅かったけれど、私にはそのときが出逢うときだったのだと思います。だから、皆さんもこの先浜田省吾と出逢いの時を持ってくれば嬉しいです。

「破壊」の千年紀から「再生」の新千年紀へ・・・

日本で唯一のローラーはこれからもどこかで、ただ歌い続けていますから。

家路 - Home Bound -



青く沈んだ夕闇に 浮かぶ街を 見おろし この人生が 何処へ俺を導くのか 尋ねてみる
手に入れた 形あるもの やがて 失うのに 人はそれを 夢と名付け 迷いの中 さまよう

そして 女たちは<孤独なエゴは> 愛という名のもとに 俺を 上と下に 引き裂いた
だけど 今でも 信じている 心のすべてを 奪い去るような 真実(ほんとう)の愛

悲しみ 果てしなく 風は 夜毎冷たく 人は去り 人は来る でも 気づけば
道標もない道に 一人

そして 夜が明けたら また生きてくために 生活(くらし)を 背負って 歩き出す
疲れた体 次第に何も 聞こえなくなる 感じなくなる

だけど

どんなに遠くても たどり着いてみせる
石のような 孤独を 道連れに 空とこの道 出会う場所へ
青く沈んだ夕闇に浮かぶ街を見下ろし
どんなに遠くても たどり着いてみせる
時のはざまに いつの日か魂を 解き放って

どんなに遠くても たどり着いてみせる
石のような 孤独を 道連れに 空とこの道 出会う場所へ

浜田省吾総力特集の締めには、1982 年からツアータイトルにもなっている「ON THE ROAD」を取り上げないわけには行きません。1998 年から始まった今回のツアー「ON THE ROAD 2001」は、今年の夏、東京から、y u k oさんの住む広島、由佳ちゃんの住む愛知へと行きます。肉離れで華麗な(?)ダンスを踊れないという省吾さんを応援しに、そして私たちも力をもらいに行ってきます。

1983 年に独立した事務所を「ROAD&SKY」と名付けた浜田省吾とともに、これからも、空と道が出逢う場所を見つける旅を私たちは続けて行きます。

ON THE ROAD

この道の彼方 約束されたはずの場所があると 信じていきたい
もう一度 孤独に火をつけて

街角に立ち わずかひとさじの慰めにも 心震わせて
君の痛みと 彼女の寂しさ 寄り添うように 時を重ねる
二人を救うはずだった夜は 軀と心 引き裂いただけ

この道の彼方 約束されたはずの愛があると 信じて行きなよ
もう一度 孤独に火をつけて

鍵を下ろした 部屋の冷たさに レコードかけ TVつけても
聴こえる音は 自分の胸を打ち続ける 空しい鼓動(ビート)
今夜 誰も聴くことのないメロディー
誰もが 一人歌っている

この道の彼方 約束されたはずの場所があると
信じていきたい
もう一度 孤独に火をつけて
もう一度 孤独に火をつけて



- ・「我が心のマリア(M a r i a)」
1995 年シングル 1996 年アルバム 『ROAD OUT " TRACKS "』 収録
 - ・「初秋」 1993 年アルバム 『その永遠の一秒に』 収録
 - ・「家路」 1980 年 『HOME BOUND』 収録
 - ・「ON THE ROAD」 1982 年シングル
同アルバム 『ON THE ROAD』 収録
- ※ words&music by SHOGO HAMADA

浜田省吾 ON THE ROAD 2001

2000. 7. 27 於・NHKホール <担当・ちかちゃん>



7月27日から東京のコンサートの幕開け。浜田省吾、いきなり歌詞を忘れる。

でもいっしょに唄っていたファンが続けて唄っていたので浜田省吾笑ってまた、唄い始める。
肉離れで医者から止められているので僕の分もみんなが踊ってと言いつつ、 踊り続ける。



相変わらず、何も凝ったものがないステージ。華やかなものや、大掛かりな仕掛けを排除しているステージ。 浜田省吾と、バンドの人たち。それで充分。それが最高。



ここ何年か必ずやっていること。(本人いわく、もう趣味になっている)オーディエンスの年齢調査。私でさえ驚くほど高い東京のファンの年齢層に、浜田省吾は何を思っているのかな。



2階の1列目で見てみると、ファンの決まった動き(振り付け)はある種、宗教を思わせる。
浜田省吾はカリスマじゃない、とちょっと醒めた目で1階席を眺めてしまった。



「家路」の唄を今また大切にしているように思う。

浜田省吾の言葉は、自分の人生と重なりあい、振り返り見つめなおす力を持っている。共有した時間のあとには誰もが、吾れを省みる。 浜田省吾の唄はすでに、浜田省吾のものだけじゃない。



アンコールを何度か繰り返すことが疑問だった。浜田省吾からそういう悪習慣をやめればいいのと思っていた。でも、アンコールで出てくると「アンコールをありがとう」と言う。
浜田省吾にとっては必要なものなのかな。



新しい唄を出さず新しいアルバムも出さず、まして動員記録など関係なく小さなホールでのコンサートを ‘2001年音楽の旅’ と名付け、4年間に渡る長いツアーを続ける。
25年間 唄い続けて、今がピークだと、またこれからはもっとよくなる筈だと一。
「本当にいいステージ」を捜しながら。 空と道が続く場所を捜しながら。

コンサートの終わりには必ず、みんなに向けて「ありがとう」と言い 「頑張っ！」と言う浜田省吾、これからも、そのままで――。

がみちゃんの映画道

オール・アバウト・マイ・マザー



2000・6・13

私の行っている歯医者先生も観たっていうから、どうでしたかって聞いたら「まああの映画、でも女の人の方が入り込めちゃうかもね」と言った。彼の言葉どおり、この映画を観たという女のひとと登場人物のあさがし(?)をするのは楽しそうなので観てください。

水曜なら 1000 円よ！でも水・土・日曜は朝の 10 時に行って整理券もらっても観られるのが夕方だったそうです。ちなみに火曜日の雨の渋谷なら座って見られました。

とにかくテンポが早いので、人の名前も覚えられず(私はカタカナ弱いのです) 考えもまとまらず、みんなが観たいと思ってくれるかどうか心配。

話は一人息子が事故死するところから始まる。そして女になった男と、いろいろな女に出会う。男も出てくるのだけれど、みんなまぬけです。

ハードな人生を送る人たち。笑ってしまうくらいハード(笑ってはいけないのか?)。

出てくる女と女になった男は、身勝手に、強かで、たくましくって、強くって、優しくって、悲しい。

結局のところ、女には入り込めない男の世界があるように、女の本音は女にしかわからない、ってことで最後には奇跡まで起こしてしまう。強さの勝利か・・・？

女になった男の言葉に真実があるような気がして、 " ガープの世界 " に出てきたゲイ以来の愛すべきゲイの登場でした。

あっという間の 2 時間半。見て損はないです。



読書リスト (2000・6月・7月)

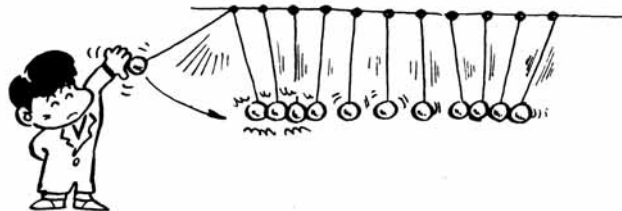
☆ つまらなかった

☆☆ まあまあ

☆☆☆ 面白かった

☆☆☆☆ とても面白かった

☆☆☆☆☆ とってもとっても面白かった！



002 がみちゃん

ストロボ	真保 裕一	近ごろ本を読むのが、かったるかったのに新聞の広告みたとたん本屋に飛んでいった。楽しみでもったいぶって味わって読みたいんだけど、どんどん読んじゃう。 この人の本は、見栄、虚栄、計算、下心なんてのもあるんだけど、出てくる人に悪意を感じられないので好きなんだと思う。真保裕一に出てくる人が小役人だったり、小心者だったりするからかしら？期待通りなんだけれど、もう一回読みたいとか、手元に置いておきたいとかは思わない一冊でした。(読みが浅いのかな)	☆☆☆
赤いペガサス (漫画)	村上 もとか	人間の記憶なんて当てにならないんですね。「赤いペガサス」のラストシーンが心に残っていて、最初から読みたいとずーっと思っていたのに、ラストシーンと途中に出てくるシーンを逆に記憶してたんです。その上、私はどうも最初から最後まで読んでいたみたいです。私の記憶は何処で改竄されたのかしら？・・・なんて、自分だけで盛り上がっていて人にはわからんでしょう、ははは・・・。 とはいえ、一气読み。面白かった。 健ちゃんありがとうございました。堪能させてもらいました。	

004 ちかちゃん

追悼の達人	嵐山光三郎	明治・大正・昭和の文豪たちが当時、本に発表した追悼と故人にまつわるお話の特集。追悼とはいえ、その文章自体がひとつの作品になっているのもあるし、悼む声ばかりじゃないところから判る人間関係や、作家が作品のイメージとはまるで違うことも楽しかった。(ありがちだけどね) 内容としては、記憶に残っているだけに、三島由紀夫たちの身近な昭和のところが面白かった。文庫本になったら買おっと。	☆☆☆☆☆
家族狩り	天童 荒太	子供が親を残忍な方法で殺していく、でも子供は親をあんな風には殺せないという確信で捜査を進める刑事。さて、その真実は……？ という話の展開や結末は この際さておいてしまい、「良い子」が家庭内暴力へと走るさまが怖い。突然変わっていく「良い子」たちというキーワードは現実でも頻繁に新聞を賑わせている。親の軋轢がひとつの大きな要因だとしたら、子供との関係をもう一度認識して覚悟しなくちゃ。	☆☆☆
龍は眠る	宮部みゆき	再読。やっぱり初期の宮部みゆきは読み応えがある。 人の心を読むことができる少年たち(サイキック)の繊細さが痛ましかった。	☆☆☆☆
凍える牙	乃南 アサ	直木賞受賞作。『抜群の記憶力、冷静さ、思慮深さ、恵まれた体力』を持っているオオカミ犬が復讐の道具として使われる。最後には、犬でありながら、食べることや生かされることを自らの意志で拒否する。まるで犬の虐待物語。読む本が何もなくって読んでしまったけれど、やっぱり止せばよかった、乃南アサ。	☆
ギルバート・グレイプ	ピーター・ヘッジス	映画と小説は別物だとは思っていたけれど、小説には健気なギルバートもいないし、母親は「遅れ」の息子を「マイサンシャイン」とも呼ばない。 脚本を原作者自ら書いたのだから納得の上のことだろうけれど、人物設定がまるで違う。この本の原題(「何がギルバート・グレイプをいらだたせているか」)のとおり、家族に、街に、友人に、恋人に、自分にいらだっているギルバート・グレイプは映画を観たあとではちょっと辛い。 映画では余韻の残るラストシーンに明るい未来が象徴されるようだったのに、小説のほうは解き放たれた柵(しがらみ)の向こうにまた別の柵が見えるようだった。映画のほうが素直に楽しめた。	☆☆

題名	作者名	感想	評価
猫だもん	相澤 秀仁 相澤 京子	これ以上ないほどの猫達の自然な表情をとらえた写真集。 相澤夫妻の、愛情を感じる。個人的には一番好きかも… こんな風にどうして映せるの？被写体の猫達も素晴らしい。	☆☆☆☆
ぼっけえ きょうてえ	岩井志麻子	前々号でちかちゃんのリストに入っていた。 前から読みたいと思っていたので…おもしろかった、ちかちゃんの感想と同じく…になってしまうが、小さい頃のお化け屋敷だとか、見世物小屋といった、何か懐かしい感じの怖さかな？	☆☆☆☆
イタリアからの手紙	塩野七生	ブルジョワ階級に属しているような感じがして、あまり好きではない作者なのだが、読んで見ると結構おもしろかった。 知らない世界と言えはそれまでなのだが、イタリアが、少しわかった。読んで見ようと思った動機が、最初のページの“カイロから来た男”だったから、映画「紫のカイロのバラ」が好きなもので…たったそれだけの動機で読んだにしてはまあまあですね。	☆☆
鳳仙花	中上健次	前号で中上健次のものは、生涯理解できないと書いたもので、中上ファンからブーイングを受けた。「鳳仙花」「枯木灘」「地の果て 至上の時」の三部作は、特に秀作だから読むようにと、助言された…うそではなかった。	☆☆☆☆
枯木灘	中上健次	鳳仙花の続編と言う事で、勢いで読んだ。 鳳仙花が、女を軸に書かれているのに対して、こちらはその息子を、主人公に書かれている。 紀州を舞台にした、ちょっと土臭い感じが、またそれはそれで良かった。	☆☆☆
百物語	杉浦日向子	文庫本なのに、中身は漫画だった。 それでも充分楽しめた。 杉浦さんって、若いんだか、年なのかわからなくて、それなのに、江戸時代になぜあんなに通じているのかしら？ でも、何か魅力的ですよ。あれだけ、知識があると…	☆☆



本を読むってことにも、なんかサイクルみたいなものがあって、今は小説より実録ものってゆーか、ドキュメンタリー系が好きみたい。あみちゃんから借りた軍艦島、友達からすすめられたターシャ・チューダーの世界、そんなのが面白い。自分の生活を自分らしく生活する。そんなところがいい。このうだるような暑さだって、考えようによっちゃ楽しめる…はずなんだけど…

暑いよお～

作品名	作者	感想	評価
世界の子供たち	写真集	何人もの写真家が世界中の子供たちを撮った写真を収録している。誕生、泣き、笑い、恋し、そして死が訪れる。	☆☆☆
富士山 (第2号)	さくら ももこ	コジコジは面白いけど、こういう寄せ集めの本、全部読む人っているのかなあ。ももこセンセイの漫画、エッセイは好きなんだけど、こういうのはちょっと…って感じ。	☆☆
崩れゆく記憶	柿田清英	(端島炭坑閉山18年目の記録・写真集) あみちゃんが図書館で借りた本をまわしてもらったもの。通称軍艦島と呼ばれた島全体が炭坑の町。1974年に閉山となり、5000人もいた住民達が姿を消してから、島全体がひとつの廃墟と化す。海に浮かぶ人工の島は蜃気楼のように、砂上に建った楼閣のように現実のものでないようにみえる。軍艦島というところが、こういう忘れ去られた島なのだということを初めて知った。その島からは何か切々と訴えかけてくるものがあるような気がする。	☆☆☆☆
建築の黙示録	宮本隆司	日本、海外の劇場、映画館などの解体作業の途上を撮った写真集。切り取られた写真をみると本当に廃墟とは美しいものなのだな、と思う。 写真の良し悪しは全く判らないので、ただひたすら文学的に評価をしてみると、そこにストーリーが感じやすく、凄惨であり、ときに懐かしさのようなものを感じる「軍艦島」の写真集のほうにより惹かれてしまう感覚がある。 あみちゃんが借りた図書館の本です。	☆☆☆
軍艦島----- 海上産業都市 に住む	写真 伊藤千行 文 阿久井喜孝	あみちゃんが図書館で借りた本(もお-----こればっか！)。周囲わずか1.2キロの軍艦島に5000人もの人達が住んでいた活気溢れる頃を、島の住人であるアマチュアカメラマンが撮りおろしている。超高密度空間のコミュニティ。密集して建てられた高層アパート群(日給社宅がすごい)学校、お寺、神社いろいろ。軍艦島の模型が載っているがそれを見るといかに建物が密集していたかが、一目瞭然で面白い。人々はこの限られた空間で生活し、閉山してしまった今、望郷の念を募らせているようだ。ここでの生活が幸せだった事が感じられてうれしい。	☆☆☆☆☆

老人力	赤瀬川原平	自分に要らないものは捨ててスリムになっていく。どんどん忘却力を鍛えて。そうだよ、本当に好きなものだけ持って楽しく暮らすのが、お年寄り(自分もちろん含めて)には一番。1998年には流行語大賞だってとったのに、イマイチ言葉として定着してないのが残念。	☆☆☆
ターシャ・テューダーの世界	文・ターシャ・テューダー写真・リチャード・ブラウン	-----ニューイングランドの四季----- 80歳になる挿し絵画家、ターシャ・テューダー。その1830年代風の、限りなく自給自足に近い、四季折々の暮らしぶりを一年間にわたって追った記録。写真の他に、ターシャ自身のイラストやスケッチが載せられ、彼女の生い立ち、人生哲学などが、彼女自身の言葉で綴られる。 「私は心から満足しています。犬(コーギー!)や山羊や鳥と一緒に、この地に住み続けること。それ以外に何の望みもありません。」というターシャ。「幼い頃から自分がしたいことが判っていた」彼女は持続する意志で、全ての願いを叶えたように思えます。うらやましい……。	☆☆☆☆☆
軍艦島-----棄てられた島の風景	雑賀雄二写真集	何回観ても、海から見た軍艦島はすごい。軍艦島と呼ばれるわけがひと目で納得できる。端島という本来の名を持つこの島を、写真家はこう語っている。「軍艦島と言う呼び名には、単に地名ではない何かがある。それはイメージなのだ」と。	☆☆☆☆
手塚治虫の旧約聖書物語 1～3 (漫画)	手塚治虫	1、天地創造 2、十戒 3、イエスの誕生 手塚治虫が総指揮をとったテレビアニメーションを単行本化したもの。読みにくい旧約聖書も漫画ならスイスイ読める。 「己の命を神に委ねる事、それが大切な事だ。」そういったって旧約聖書の神様は人間を試してばかり。それを乗り越えられないと罰を与えちゃったりする。う～ん、あんまりじゃん。	☆☆☆☆
1973年のピンボール	村上春樹	「無から生じたものが、もとの場所にもどただけさ」という「僕」。もっと他者との関りの中で悪戦苦闘する「僕」の方が好き。	☆☆☆
消失ーポール・オースター詩集	ポール・オースター	詩を読む、のは難しい。もっと素直に感じることに重きを置けばよいのだろうが、慣れていないのかそこいらじゅうに力を入れて読んでしまう。いつもそばに置いて気が向いた時にふと読む、そういう形がよいのだろう。「語ることを精神の延長でなく、体の機能として考える。」「眼がもたらしてくれるものと等価でありたい。」とオースターは詩の中で語る。ただ受け入れて語った言葉が、言いたい事の全てを表してくれれば、言い過ぎたような言い足りないような、こんな感覚を味わう必要もないのに。DGの感想ももっとまともになるかも。	評価 できません

パン屋再襲撃	村上春樹	短編集(「ねじまき鳥クロニクル」の原型となる短編を含む。) 『象の消滅』:「僕」の住む街で飼われていた象とその飼育人が、ある日突然姿を消す。村上春樹、描くところの「僕」は幸せな状況にいてもなお、欠落感を抱え何かを探し続けずにいられないというタイプの様に思う。象とその飼育人は長い年月を共に過ごし、「僕」の欲しがっているものを手にしたのだろう。象と飼育人の幸せな今後を想像するのはとても楽しい。	☆☆☆
アーミッシュの食卓	菅原千代志	先月号DGで紹介させてもらった「アーミッシュ—もうひとつのアメリカ—」の続編。 アーミッシュのコミュニティを訪ねてみたいと思う人への簡単なガイドブックにもなっている。 アーミッシュについては、映画「刑事ジョン・ブック目撃者」を観て頂ければ、一目瞭然。サスペンス映画としても一級品ですので、チャンスがあったらご覧ください。おすすめですよ。	☆☆☆☆
シェーカーへの旅—祈りが生んだ生活とデザイナー—	藤門弘	1774年、シェーカー教、教祖である女性アン・リーが8人の信徒とともに、リバプールから、ニューヨークへ渡って築いた簡素で優美な生活様式を基調とするコミュニティ、そこで作られた家具に魅せられ、日本でその復元や、田園での自立したコミュニティライフを目指す著者が、シェーカーの遺していったものを追っていく。 副題のとおり主目的は家具や建築物などにあり、もう少し人間を追ってくれる方が私としては惹かれるんだけどな。	☆☆☆
ギリシャ哲学の原点——「知恵の愛求」としての哲学	天野正幸	放送大学教科書。この4月から科目履修生となり7/28日に行われたテストに向け、真面目に勉強などいたしました。ソクラテス、プラトン、アリストテレスなのだけれど、いや〜難しかったなあ。わかるところは面白いけど、わからないところは何にも頭に入って来ない。そんでわかんないところの方が圧倒的に多いのね…。この教科書3回は読んだんだけどなあ〜それでもちんぷんかんぷんだったのは、よっぽど……	評価なし 教科書ってわかりにくい!
MONSTER (漫画) 1～14巻未完	浦沢直樹	この人の作品は漫画ベストテンをやれば絶対上位に入ってくる安定した面白さがある。Dr. てんまの善に対するヨハンの絶対悪。図式どおりなんだけど感動しちゃうんだよね。泣けるよね、ボロボロ。まだ連載中だけど、話は完結も近いです。	☆☆☆☆
ドラゴンヘッド (漫画) 1～10巻	望月峯太郎	日本の壊滅と再生の予感。現実を見極めたところに出発がある——なんて一言で括っちゃいけないよね。媒図かずお「漂流教室」に似てるって言った人もいたけど、あれは親子愛がテーマだったもんね。断然「漂流教室」の方が好き!	☆☆

パルプ	チャールズ・ ブコウスキー 訳・柴田元幸	＊ 飲んだくれで競馬が趣味のダメ探偵 にふたつの仕事 that 転がり込む…＊ 柴田元幸訳で買った。途中まで、普通の 探偵小説だと思って読んでいたら、 あららら、なんか雲行きが怪しい…。 死神は出てくるわ、宇宙人は出てくるわ。 もー、めちゃくちゃ！ ブコウスキーという人はカルト的人気 のあるアウトロー作家らしい。ただただ、 楽しく読めばオーケー！	☆☆☆
イン・ザ・ ペニー・アーケード	スティーヴン・ ミルハマー 訳・柴田元幸	表題作ほか6篇を収めた短篇集。 精緻な筆致で幻想的な世界を描き出す。 話としては退屈なのに、その退屈さがだ んだんと心地のいい静けさに感じられる 不思議な物語。	☆☆
軍艦島 海上産業都市に住む	写真・伊藤千 行 文・阿久井喜 孝	軍艦島とは長崎県端島の別称。 その姿が海に浮かぶ軍艦のように見える ことからこう呼ばれるようになった。 端島はかつて炭鉱の町として栄え、島全 体がひとつの町となっていた。炭鉱の閉 山により島は無人となり、人のいなくな った町がまるごとひとつ海の上に残され ている。端島炭鉱が閉山して25年あ まり。この本には端島が炭鉱の町として 栄えていた頃の人々の暮らしが記録され ている。	☆☆☆☆
崩れゆく記憶 ＜端島炭鉱閉山 18年目の記録＞	柿田清英	軍艦島が無人と化してから18年後の島 の様子を撮った写真集。 人の気配を残したまま20年近くの歳月 が流れた部屋、子供の姿の消えた幼稚園、 哀しくて美しい町の風景。	☆☆☆☆☆
軍艦島 棄てられた島の風景	写真・雑賀雄 二 文・州之内徹	「崩れゆく記憶」とほぼ同時期の島の様 子を撮った写真集。 かつては誰かの持ち物だったであろう人 形、酒瓶、食器、アルバム。棄てられた モノたちを撮りながら、かつての島の様 子が語られていく。	☆☆☆☆☆
建築の黙示録	宮本隆司	建築物の解体されていく様子をおさめた 写真集。	☆☆☆
アメリカ文学の レッスン	柴田元幸	＊「名前」「食べる」「建てる」等々の鍵 言葉を設定し、その言葉から連想される アメリカ文学の作品を紹介＊ 「白鯨」も「ライ麦畑」も「ギャッツビ ー」も。古典から定番モノから最新のも のまでアメ文の魅力がぎっしりつまった 一冊。	☆☆☆

愛の見切り発車	柴田元幸	＊ オースター、ユアグロー、ミルハウザー、一癖も二癖もある作家の醍醐味を紹介した現代アメリカ文学の水先案内＊ 内容的には「アメ文のレッスン」と似てるんだけど、こっちのがストレートな本の紹介。作家へのインタビューも多数。	☆☆☆
ここはどこ ～時に空飛ぶ三人組	岸田今日子 吉行和子 富士真奈美	＊ 3女優が一緒に旅した台湾、ハワイなどの旅行記＊ なぜかこれのテレビ版は結構観ていて、実はファンだったりする。これを読んでいたら、どーしても台湾に行きたくなって、ほんとに台湾に行ってきた。台湾、おすすめですよー。	☆☆☆☆
照柿	高村薫	＊ 「マークスの山」「レディ・ジョーカー」と続く合田雄一郎シリーズの第1作。＊ たぶん世間的にはあまり評価されていないだろう一冊。確かにちょっと退屈といわれればそうなんだけど、わたしは嫌いじゃない。 高村薫の描く鬱屈した男の人ってすごく好きで、ここでも合田さんのだめ男加減がたまらない。	☆☆☆☆

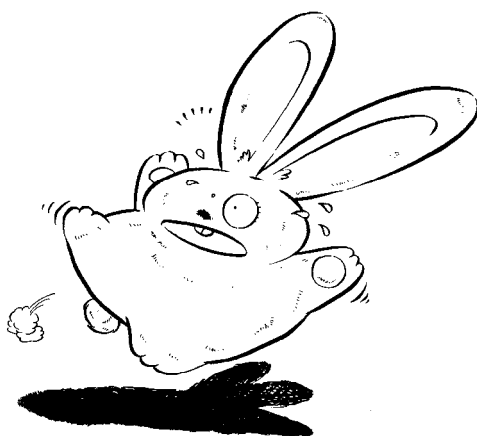


006 うさお

今回は一段と暑さが厳しく、とても電車の中で本を読む気分ではなかった。暑さゆえの睡眠不足をなんとか取り戻そうと電車の中では微睡んでいたのだ。でも、これが目覚めるとびっしょりと汗をかいていて、不快なことおびたしい。

かてて加えて、一月の大半を出張していた。函館と大津の間を何回も繰り返して、飛び回っていましたとさ。どちらも暑い、暑い。北海道は基本的に宿泊施設に夏のクーラーは無い。

という事で、図書館から本は借りてきたがほとんど目を通さずに返してしまった。悪いことに海外の小説を多く入れたので、登場人物の名前を覚えるのがこれまた一苦勞。これが敗因です。



作品名	作者	感想	評価
侵入者--- イントルーダー	ピーター・ブローナー	てっきりSFだと思ったら、閉鎖社会に入り込んだよそ者のことだった。もちろんミステリー。2/3読破するも続かず。	☆☆ 読んでないんだから、評価できないんだってば…
十六夜小僧	高橋義夫	時代劇だし、短編集だし、すぐ読めたぞ。プチ山本周五郎というところか？	☆☆☆
屍蝶の沼	司凍季	設定が凝り過ぎてて読みづらいことおびたしい。読まずに返した。	☆ 茹だりながら轟沈。
わが体内の殺人者	ルネ・ベレット	殺人鬼の人格と精神医との人格が入れ代わってしまうという古典的なシチュエーション。	☆ 取っ付く事では出来ず轟沈。
喪失	ジュディ・マーサー	これもサイコミステリー。面白そうな解説だったんだけど…	☆ またまた轟沈。
潜入捜査 警視庁公安部	佐竹一彦	どうしようもないほどくだらない。囃捜査を書こうとしたらしいのだが、筆が滑って転んで。どうしようもなく主人公を最後には殺してしまった。	☆ 詰らなくて「涙も下らん」というのが訛って「なんだ!くだらん」となったという説がありますが? (;^ ^)
裁きの日上・下	スージー・ウェットローファー	読めませんでした。ごめんなさい。図書館さん。	☆ 評価が出来んなあ、轟沈。

殺人を呼んだ本	赤川次郎	さすが赤川さん。読み易いなあ。軽いなあ。	☆☆☆ お手軽、お手軽。
バッド・プレース	ディーン・R・クーンツ	ようやく読めた。いつもなら大好きな D.R. クーンツなのですうすい読めるはずなのに、苦勞しました。X ファイル的な面白さですぜ。	☆☆☆☆ いつもながら映画のようです。
鏡の中の悪魔	D・ヘンステル	これもサイコミステリー。でも、ごめんなさい。	☆ 轟沈。
手作りロケット 完全マニュアル	監修ー日本 モデルロケット協会 山下洋一	ロケットィアになるための教本です。これは是非手元に置いておきたい一品です。	☆☆☆ 中身は打ち上げに要する物理学的な計算です。アマチュア・ロケットィアの資格がいることを皆さん知ってました?
デズデモーナの不貞	逢坂剛	まりえの客の続編なのかな、これは? 掌編。なかなかいい味だしてます。この人の「百舌」シリーズが好きだけど、作品数は少ないですね。	☆☆☆
沈黙の教室	折原一	この本、前にも借りたぞ。タイトルで選ぶ人だからね、わたしは。	☆ 自分のミスを棚に上げ 轟沈。
窮鼠	松本賢吾	さあっと読めたけど、つままない書き方だな。	☆
天使たちの場所	香納諒一	この本、前にも借りたぞ。タイトルで選ぶ人だからね、わたしは。	☆☆☆
凍える牙	乃南アサ	この本、前にも借りたぞ。タイトルで選ぶ人だからね、わたしは。でも、面白いからまた読んじゃった。(°-°)	☆☆☆☆

と言うわけで、ぼろぼろです。だから大学時代に同人誌「綾の鼓」を主催していた頃の創作を、お茶濁しにプラスしておきます。気負った表現は、若さゆえの気負いです。ご容赦ください。

今の私は達観していますから、心静かに、多少の悪口なんか気にしま…

誰です。!!そこでこそこそと…何か言いたいんなら前に出なさいよ。えっ、顔を赤くして怒るなって? おお!上等だよ。かかってきなさいよ!…ふん!



新居荀子は、小さな農園をもっていた。勿論、彼女の父が農園主であることを考えあわせれば、当然なのであるが、十七才の誕生祝いに父がくれた特別なものなのだ。農園には一本、太い径が緑を貫いており、路傍に銀杏を配し、遠くからでもその所在を明らかにしてくれていた。

その径のほぼ中央あたりに、小高く盛り上がった所があり、丘と呼ぶにはあまりにも、ささやかなものであったが荀子はそれを夕陽の丘と呼んだ。とりたててそう呼ぶ理由などなかったが、子供の頃、そこに登って見た夕陽が綺麗だと思ったからに他ならなかった。荀子は、仔牛の為に玉蜀黍を植えていた。もう一月もすれば、それは程良く熟すはずである。荀子は日々の暮れつ方、玉蜀黍に囲まれた草地に腰を下し、もの思いにふけるのが常であつた。だが、荀子はおおよそ女の子がおちいている甘い感傷に浸れなかった。七月には不向きな黒づんだ枯れ葉が目の前をよぎっていった。

彼女には、二つ年上の許嫁者がいた。それが彼女の、十七歳という光を消えさせ、寂しい感じの女の子に仕立てていた。別に彼女が望んだ事でもないし、父がとりきめた事でもなかった。

品川正夫と言ひその父は勢力家でこの地の商業、財政を思うように牛耳っていた。親の甘やかしが正夫をことさら手のつけられない暴れ者にし、粗野で我が儘にさせていた。いつからかそんな彼が、荀子に目をつけていたかは、知らないが、欲しい物は幼い時から我がものにしていた正夫だ。無理矢理親をくどき落して荀子の父に圧力をかけたにちがいがなかった。

父はその圧力に抗う事を知らず、荀子が高校を出るまで結婚は待ってもらいたいとのむのが、せいぜいであつた。そして、もはや半年後には高校を卒業しなければならなかった。

荀子は、そのような正夫の生臭い獣のような情欲が、ふと自分のまわりにじわじわとしめつけるように、まわりつくのを感じて、ゾクッと身を震わせた。

陽はもう山の端にすっぱり隠れて荀子の顔が、ぼうと蒼白く闇に浮んでいた。

翌日も彼女は夕陽の丘に来了。いつもと違って何となく楽しい。高校では、新しく転任して来た先生の話で、もちきりだった。東京から来たとの事で、明るさの内に楚々たる風情を隠した美しい女だった。意外に男子生徒だけでなく女生徒にも人気があつた。何しろ、寄るとさわるとその話だ。荀子は、いっしょに転校して来た先生の弟だという少年に何か心ひかれるものを感じていた。

少年はたまたま荀子と同じクラスになり、席もそう遠くはなかった。時折、少年の横顔をチラッ、チラッと盗み視していたが、そのうち少年と眼がぱったりと合ってしまい思わずほおが、桜色に染ってしまっていた。少年はにこりと笑い、その微笑は心通うものを感じさせた。胸さわぎはするし、心がキューと縮まるようで顔を伏せてしまった。

荀子は傍らのかやつり草を一本摘み取り口にくわえるとクックッとふくみ笑いをした。寂しい笑いだった。

陽があかね色になった時、荀子は腰を上げた。その時ふと眼の隅でキラリと紅い輝きが見えたような気がして目をこらしてみた。夕陽の光を受けて、表面に出た玉蜀黍の粒がキラキラと、まるで雲母片のように時としてルビーのように透き通って見える。

でも、玉蜀黍に紅い実なんてあったかしら。

荀子はさらに表皮を少しむいてみると、内から同じような粒が綺麗な歯並をみせて透き通って輝いていた。しばらく、その不思議さにうたれて、じっと見とれていたが、やがてその紅い粒がひとつとして同じ紅色を呈していない事に気がついた。

赤く輝いているもの、どんより赤黒いもの、目のさめるような探紅、紅の色さえさだかでない黒紫。もう少し良く見ようとして、

暮れかかる夕陽にかざして、その玉蜀黍に手を触れた時、赤黒い粒のひとつが欠けて、ぽとぽと落ちた。その事に不吉なものを感じた荀子は父の待つ暖かい家へと逃げるように帰っていった。

翌朝、作爺の所から父に迎えが来た。なにやら昨夜来から急に容体がおかしくなり危篤状態が続いていると言うのだ。父はとりあえずと言いながら朝食も食べずに、飛び出して行った。荀子には、心臓をドキッと締めつけられるものがあり、そのまま表にかけ出すと、真直夕陽の丘に登っていった。昨日のあれは悪い事の前兆だったのよ、そうしたのは私。何だか、恐い事が起きてしまいそう。夕辺、落した粒はすぐにも見つかった。昨日よりも大分色が失せてはいたがまだ紅色は呈している。鋭い後悔の念を感じ、無駄とは思ったが、もとの欠けた所にはめ込んでみると、難なくすっぽりとその場に納って見る間に昨日の如き色合にもどった。あっと声にならない声をあげると、後も見ないで、丘を駆け降りていった。

不思議な事もあるものだねえと正午頃帰って来た父が言った。荀子は学校を休んだのだ。

医者はまだ時間の問題だとさじを投げていたのに、今日になったら作爺の奴、見る見る血の気をとりもどして今じゃピンピンしているじゃないか。父は何度もくどくどとひとつ事を繰り返して、口に泡をたてて言っていた。いつもならうんざりとしてしまう彼女だが、今日だけは何かホッとして父の言葉に耳を傾けていた。

おや、荀子。何だか顔色が悪いようだね、真蒼じゃないか。

うん、何でもないのよ。

軀の内に暖かさが、よみがえって来た。

数日もたつと、少年は荀子を見てニコリと笑いかけて来るようになった。そんな時、荀子はあわててあらぬ方を視るふりをするのだ。少年は所在なさそうに寂しく目を膝の上に落している。

私は……私はねえと、荀子は心の中で大きく叫ぶのだけれども、顔はまだそっぽを向いたまま。

陽が中天から西にはづれた頃、荀子は銀杏の間を縫うようにして歩いていた。背中に少年の眼を感じながら……

ひらり、ひらりと踊るように歩を進め、心がいつになく激しいリズムを刻んでいたが、かえって快よくそれを楽しんでいた。やがて夕陽の丘に来ると傍らの玉蜀黍畑に飛び込んで身を伏せ少年の来るのを待った。

案の状、少年は目に戸惑いを浮べて玉蜀黍を眺めていたが、荀子が入っていったとおぼしき畑へ足を踏み入れていった。だが、彼は矢庭に足首を握られて、どうとばかりに、そこに倒れてしまった。荀子は少年の足が、目の前に来た時そうするつもりはなかったのに、その足首をとらえてしまっていた。彼の手は暖かくやわらかいものを把んでいた。荀子のほほと少年のほほは、まさにくつつかんばかりだったし、彼の手の下のやわらかいものが、荀子の軀と解って、真赤になって手を引いた。

何故、あんな事をしたんだろう。

荀子の方が驚き、言いようもない恥らいで一杯だった。

玉蜀黍畑の中で凝視合ったままの二人は、やがて笑い出し少年が先に口を切った。

その、何です。君が僕の心を把んで放さないものですから、今日は君のを僕が……

華やかな笑い声が、玉蜀黍の中で聞え、雲雀が小首を傾けた。二人は何年来もの親しい友のように陽気に声をたてて笑いあった。そして友から、男と女に変っていった。

そうだわ、貴方に素晴らしいものを、お見せするわ。荀子は、少年を紅い玉蜀黍のある畑へ連れて行って、件の玉蜀黍を見せたものだった。

まさか、本当なの それ

少年は物珍らしげに、紅い粒の列を眺めていた。彼はしばらくの間、荀子の眼をのぞきこんでいたが、本当なんだねと、ニコリ笑った。

この色とりどりの糸がついているのは、どうして

少年が指した。荀子は、この数日間、粒の状態やら色具合から、おうよその人の見当がついていた。それを色絹糸で、その目印としていた。少年はほほうと言う顔をしてみせた。

これが貴方なの。これが、私

黄色の糸を指し示し、次に青糸を示してみせた。

この血のように、寒々しい色の糸は、誰の……

私の最も嫌いな人よ

荀子は、はき捨てるように言った。夕闇は、二人の知らない内に、押寄せて来た。

今日は、少年が休んでいた。

どうしたのかしら……

荀子は口に出して言ってみた。これじゃあ、まるで世話女房と心の内で、舌を出してみせた。陽は大部、傾むいていた。玉蜀黍に囲まれて、腰を下す。

荀子は一瞬、真蒼になり、立ち上がった。

黄色の糸のついた玉蜀黍の粒が、消え失せて、ポッカリと空洞が明いていた。とたんに、荀子は後から抱き締められ、首筋に生臭い息がかかった。死にもの狂いにあばれて、その手にかみつ、やっ腕からのがれて自由になった。

貴方だったのね、黄色の糸の……

その先を手で制して、正夫は情欲に燃えた目で、荀子をねめつけた。荀子は、救いを求めるかのように、玉蜀黍を見た。ニヤッと笑い、ふてぶてしくその先を続けた。

……粒は俺がもらっといた。勿論、丁重にしてね。時に俺の許婚者さん。話は昨日の事で、俺はたまたま君をドライブにさそおうと思って来てみたのさ。聞けば、まだ帰ってこない、多分玉蜀黍畑と言われ、なあに、車で行くには及ばん、銀杏並木のお散歩も何々乙じゃねえかと勇んで来りゃあ畑の中で、ちんちんもがもがおしゃりこしゃりこって案配、そうさ、お楽しみの最中だったじゃないか。

正夫の眼には、青白い狂暴の光が、あふれていた。荀子は正夫の言いようもない下卑た口調に、たまらない嫌悪感を覚え顔をそむけた。

へへへ……あいつも相当おめでたいお坊ちゃんだぜ。

お前さんの、あんな甘ちろい夢みtain話を真に受けて、……ははは……いいお笑い草だ。

あの時、俺がどんな思いだったか、判るまい。俺が隠れているのも知らず、仲の良い所をたっぷり見せつけさせていたばかり……そうとも俺の未来の花嫁さんがよ。

つばを傍へ吐いて、一歩荀子に近づいた。

へっ、だが俺はそれ程馬鹿じゃねえんだぜ。どうせ、俺の妻になる女だ、何も急ぐことはねえ。なあ、お前さんの夢をゆっくり壊してから、ものにすりゃあ、それでいいことだ。お望みなら今からだっていいがね。

正夫の大きさを体は、いつの間にか荀子の退路を断っていた。彼女はその時に本能的な恐怖を感じた。逃げられない。逃場を失った鼠でさえ、このように哀れではなかったろう。正夫は近づきながらゆっくりとポケットから手を出し、その手を荀子の目の前でちらちらさせた。

黄色の糸だけが、鮮やかに目に映った。

やめてっーと荀子が叫ぶのと、正夫の指の間から真赤な液体が、したたり落ちるのと同時であった。

正夫は予想外の効果に満足の笑みを浮べて真白気に血の気の失せた荀子の様子を見るのだった。

その急激な動きは流石に正夫も止めることはできなかった。荀子は紅い玉蜀黍から粒をもぎとり逃げようとした。彼女の軀はたくましい正夫の腕につかまり、その時から荀子は何の抗いも見せなかった。正夫は荀子のブラウスに手を掛けるや力まかせに引きちぎり、スカートをむしり取ったが、彼女は蒼白い顔で空を見つめるだけで、体中の力を抜いていた。

やがて荀子の体から一切の布片をうばいさと狂ったように草原に押し倒した。

なあ、俺と楽しく遊ぼうじゃないか。そのうち、お前の方から俺にしがみついて来るさ。正夫は、残忍な笑いをほおに残して顔を近づけて来た。

荀子は玉蜀黍をひとつ口に含むと思いきり奥歯で、かみつぶした。

なにしろ目の前が真赤になったことだけは覚えている。

それが今まさに、沈まんとしている夕陽のせいなのか、荀子の体の上にまとわりついている。なんとも形容のしにくいどろどろにつぶれた苺シロップの様なもののせいなのかは知らない。

今や荀子の肉体は、どこかしこも深紅に輝いていた。そのままの姿勢でしばらく沈せんとする夕陽を見つめていたが、その眼に涙が宿り、ほおを伝って夕陽の丘に落ちていった。

荀子は青い糸のついた紅い粒を口に含んだ。

復刻なるか！「綾の鼓」

この当時挿し絵、表紙絵が描きたくて、この同人誌を主宰していた。「奇妙な味」(queer taste)というジャンルを目指していました。何かその手のものを書かなきゃなっと言う事で、この作品が生まれました。

当時の会員は、学生さんか新入の会社員さんが主体で、時には高校生さんも混じっていました。

あの「夢枕 獏」もいました。これが唯一の自慢です。



健ちゃんのテレカコレクション

〈第4回 ラーメン編〉

ラーメンの歴史は長い。僕たちはとっても長〜いお友達です。元祖「チキンラーメン」というのは、昭和33年に誕生した。もともと庶民の味だったラーメンだが、より手軽に、好きなときに家で食べられる事をコンセプトにインスタントラーメンは生まれた。当時は一袋35円もした。外で食べるラーメンが40円、自宅で麺を買ってきて作れば15円位の頃の事だから、今とは比べものにならないくらい高かったことになる。そういう理由からか、僕としては当時あまり食べた記憶がない。



インスタントラーメンをよく食べるようになったのは、昭和39年誕生の「長崎タンメン」がきっかけだ。この年は東京オリンピックが開かれた高度成長時代の真っ只中。インスタント麺も浸透したからか、一個30円と値段を下げた。野菜を入れて食べるのが大流行し、このブレイクを受けて今や定番、王者の風格漂う「サッポロ一番」「チャルメラ」「出前一丁」が生まれた。

チャルメラおじさんは、もう35年も屋台「当たりや」号を引っ張っている事になる。ごくろうさん！





昭和46年カップヌードルの登場。会社の人に初めて聞いた時には「ヌードルとは何じゃ??」と思ったもんだ。カップヌードルが世界的にあたって、カップ麺も市民権を得、これから種種雑多な商品が開発されラーメン戦争は激化していく。日本人でラーメンが嫌って人は本当に珍しい。雑誌のラーメン特集は売れるし、がんこおやじの店は流行る。世のラーメン好きは数知れない！

どのように他社との差別化をはかるか？
業界は独自の戦争に入り、高級本格ラーメン「中華三昧」の登場だ。昭和56年、

これまでの庶民性というテーマとはうってかわってインスタントに高級感を持とうとしたが、ラーメン大好き人間の僕としては、「インスタントラーメンにはインスタントラーメンの味があるもんだ。」結局そういうふう思うね。



(さてクイズです。左端の女の子だぁ～れだ？↑)

そして「ラ王」、生メンタイプの登場。

これ以降はネーミングも凝ったものが増え、CMの出来具合でヒット商品が生まれたりもするようになった。ある意味安定期に入ったってことか。

まあ、みなさん、健康の事を考えるんなら、インスタントラーメンであってもスープは別に作る事をおすすめしますよ。体を大事にしてこれからもまだまだいっぱいラーメンを食べようね！



表紙は語る

詩 桜井和寿



DOKU—GAKU掲示板

なんでこんなに暑いのか？ってくらいあ・つ・い！

これが夏ってもんなのかしらん？

地球は確かに温暖化に向かっているんだな～

さてさて

D G臨時増刊号は如何でしたか？

ではアンケート特集の感想からどうぞ！

<yukoさん>

とっても良く仕上がっていますね、みなさんの回答それぞれが、個性にあふれていておもしろかった。良い企画でしたね。でも、大変だったでしょう？お疲れ様でした。すっごく立派な出来ですね！

ゲスト感想です。ご協力ありがとうございます。

<Y純子ちゃん>

すごく面白かったです。

どんな人なんだろう？会ってみたいなあと思ったり、 ちょっと私とは、無理かな？と思ったり
こういう答え方もあるのか、そう私もそうなのと頷いたり・・・。

「みんなと同じ答えになってしまう」のは、私はちっとも かまわないと思うよ。

同じ価値観だとわかってうれしいもの。自分だけが、特別変じゃないんだ、 と安心さえ感じたよ。

○生きていく上で大切にしていること

○愛とはどんなもの

○この1年で嬉しかったこと

には、改めて考えさせられました。

できれば、会員の人のひとこと紹介も載せてほしかったなあ。

紹介文は、ちかちゃんの洞察力のすごさに脱帽。 綾美ちゃんの綾美ちゃんらしさに感激！

変な意味でなく2人のこと、ますます好きになりました。

（明日死ぬかもしれない）なんていいなあ～。 私は、（いい何かあったら死ぬんだから）といつも
も思っているの・・・。 開き直りかな？

**D G企画から すみません。D Gレギュラー中心でやったもので、レギュラー
の紹介はかぶるので止めたのです。ゲストで参加してくれた上に、
お褒めの言葉もいただいてキョーシュクですが、嬉しいです。**

はーとはーと。

<chizukoさん>

どんな人かわからないので、勝手に想像しながら笑っています。

あとくんの性格と透明人間の所がおもしろかったです。ぜひ、お会いしてみたいです。

みんな、よく本を読んでいますね。

仕事をやめて暇なんだから、もっと本を読もうと思いました。

D G企画から あとくんは、まだ省吾さんを理解しないのですが、いいのでしょうか？

<かずくん>

幅広い人脈にビックリです。いろんな人達の意見がみられて面白かったです

皆さん本を読んでいる人なので流石の文章力ですね。次号も楽しみにしています。

D G総務から いつもご愛読ありがとう。これからもよろしく。

前号、特別企画「初めての出会い」に寄せられた感想です。

綾美ちゃん♪

DOKUGAKUありがとう！とてもとても気に入っています。

かよこちゃんが「銀のスケート靴」知ってるって！

あみちゃんも好きだったって！さすがにDOKUGAKUの人達。

かよこちゃんのに書いてあった「ラプンツェル・ラプンツェル」は階段のない塔の中に幽閉されたお姫様が魔女のために自分の長い髪を垂らして塔に登らせるってあのお話の事かしら？

もしそうだったら、私は二度目の感激。これも私の周りには覚えている人がいなくて。

このお話はたしかシャーリーテンプルが進行役のお話シリーズで、小学生の時テレビで見ました。私の記憶違いでなければ。

かよこちゃんより綾美ちゃんへ♪

そーです。そのお話です！私は本で読んだと思ってるんだけど、塔の中から長い髪を垂らす…って何かいろんなバージョンのお話があった気がする。例えば登ってくる人が王子様だったり、お婆さんだったり。自分で作っちゃってるのかな？TV版があったんなら観たかったな。残念。

私ね、他にもいろいろ気になってるお話はあって。

夜寝ている間に街中をさまよい、角々にパンくず？をおとしてくるお姫様の話とか、爪を何年間だかずっと切らないでいたら(ほかにもいっぱい難問を出されるの。髪を伸ばし続けろとか、お風呂呂に入るなどか。その難問がとっても私には都合のいいものだったので忘れられない！)お姫様と結婚できるといわれる男の人の話とか。うろ覚えなんで題名もわかんないんだよねえ～

さて
我らがD Gも来号にてめでたく一周年を迎えることになりました。
ゆるやかな長いつながりをめざし
また新たな一年に向かっていくことになります。
では企画ちかちゃんより報告です。

○アンケート特集に載っていた意見で、名前の敬称が「ちゃん」ばかりでつらいというようなことが書かれていましたね。確かに自分のページを自分で作るときにちょっと抵抗があります。そこで、次号から敬称を無しにしようと思うのですが、いかがでしょうか？

D Gも試行錯誤です。
良いと思えるところがあったらどしどし取り入れていきましょう。
ふたりの新会員さんを迎え、進化し続けるDOKU-GAKU。
これからもよろしく！

♪♪♪

健ちゃんテレカコレクション・クイズの答は
「ZARD」だよん。みんなわかったかなあ？

2000年8月20日発行
発行人 読書を楽しむ会
表紙 詩・桜井和寿
印刷・製本 M's factory

次号予告

DOKU-GAKU 10月号

10月下旬発行予定

投稿締め切り9/30

一周年特別企画は『DOKU-GAKU総決算

一年を振り返る』です。

この一年で読んだ、観た、あなたの一番のお薦め作品を
教えてください！

DG一周年記念にふさわしい
力の入った投稿をお待ちしています！

次号からの新たな気持ちでのスタートにあたり、二年目に向かう
心意気(?)もお伺いしたく思います。

途中入会の方は答えられる範囲でお願いします。

DGをやってきて何か影響を受けたことがありますか？

DGの企画、コーナーで一番心に残っているものはなんですか？

年間読書数の
一番多かった会員さんの表彰も行なう予定。
それは一体誰でしょう？楽しみに。

一周年記念スペシャル
DOKU-GAKU 10月号もよろしく！